

次の英文を70～90字の日本語に要約せよ。ただし、句読点も字数に数える。

Some years ago, on a journey to America, I passed the time by asking my fellow passengers to answer some rather strange questions. The first was: 'which seems to you the larger, an elephant or a second?' After explaining that I meant a second of time and not a second elephant, I then tried to find out what sort of length of time people would consider equal to the size of an elephant.

One man was a physicist. He insisted that the second must be equal to the distance travelled by light during that interval of time — which is much larger than an elephant, of course. But most other people voted for the elephant, though there were wide differences in the selection of a time suitable to compare with it.

Why would most people feel sure that an elephant is larger than a second? Presumably because we think of an elephant as larger than most animals we know, and seconds are smaller than most of the time intervals with which we are concerned. What we are really saying is that an elephant is large for an animal and a second is small as time goes. So we instinctively compare unlike objects by relating them to the average size of their kin. ('89 東大)

* 下線を引いた語句がいゆる discourse marker (論理 or ストーリの展開の指標となる接続語句等) であるが、少し広い意味で取り上げている。

【全訳】何年か前、アメリカへ行く旅の途中、暇つぶしに、乗り合わせた乗客にいくつかかなり変わった質問をして答えてもらった。最初の質問はこうだった。「象とセカンドのどちらが大きいと思いますか」。セカンドというのは時間の1秒のことであって二番目[もう一頭の]の象のことではないと説明しておいて、私は人々がどういう長さの時間が象の大きさに匹敵すると考えるのかを知ろうとした。

乗客の一人は物理学者だった。1秒というのはその時間に光が伝わる距離に等しいにちがいない——もちろん、それは象よりはるかに大きい、と彼は主張した。しかしたいいていの他の乗客は象に軍配を上げた[象のほうが大きいと主張した]。もっとも、象に匹敵するに相応しい時間をどれくらいとするかは人によって大きく違っていたが。

なぜたいいていの人は、象(1頭)のほうが1秒よりも大きいにちがいないと思うのだろうか。おそらく、私たちは象は自分が知っているたいいていの動物よりも大きいと考える一方、秒のほうは私たちが関わりのあるたいいていの時間の間隔よりも小さいからであろう。実は私たちが言っているのは、象は動物としては大きく、秒は時間としては小さいということである。つまり[したがって]私たちは直観的に、似ていない[種類の異なる]ものを、同種のものの平均的な大きさと関連づけて比較しているのである。

* ポイントとして拾うべき箇所引いた全訳中の下線は、実際は英文に引かれるものだが、見やすさを考えて日本語訳に引いてある。

* 下線を引いた箇所を出来るだけ簡潔な日本語にまとめたのが下記のポイントである。

「種類が異なるものの比較」 ([1], [2] は段落の番号を表している)

[1] (ポイント① 同乗の客に変わった質問をした=前置き)

[1] ポイント② **象と秒のどちらが大きいか**=主題への導入

[2] (ポイント③ 物理学者は秒だと言った)

[2] ポイント④ (しかし)たいいていの人は象だと言った

[3] ポイント⑤ **なぜ象のほうが大きいと思うか**=主題

[3] ポイント⑥ **似ていないものの比較を、同種のもの**の平均的な大きさと結びつけて行なうから=主張(結論)

【解答例1】「象と秒のどちらが大きいか」という問いに大部分の人が象と答えるのは、種類の異なるものの大小を比較するとき、同種のもの平均的な大きさと関連づけて考えるから。(78字)

【解答例2】象と秒を比べると象のほうが大きい、とたいいていの人が考える。似ていないものを比較するとき、人は直観的に同種のもの平均的な大きさと結びつけて考えるから。(75字)

※この年度は kin という語の意味がわかったか(推測できたか) どうか分岐点。

ただし 形容詞の akin to 「～に類似した、～と同種の」は特に難語ではない。

※20という字数の幅からして、正解の幅(拾うべきポイントの数の幅)は比較的緩やかなはずである。

※同様に、本文の分量と指定の字数からして、「象と秒」という具体例は拾って当然と言えるが、字数が極端に少ないときは、これも省くことになる。

次の英文を60～80字の日本語に要約せよ。ただし、句読点も字数に数える。

It is significant that the scenery which the amateur painter finds most attractive as a subject for painting is the scenery most often avoided by the serious professional artist. Very few of the great landscape artists of the past or present have ever chosen to paint naturally dramatic or beautiful subjects. A landscape which is naturally beautiful or otherwise attractive to the human eye leaves the artist with little to do except faithfully copy what he sees before him. This is all very well for the amateur because it means he does not need to compose the picture he paints, rearranging the details of the natural scene. The scenery has already composed itself for him. The serious artist, however, does not want this. He prefers scenery the amateur painter would reject as plain or uninteresting. The professional prefers this type of scenery because of the challenge it offers to his skills as a painter; to see beauty where it is not easy to see, to create order where the natural elements are confused, in short, to make art from nature. ('90 東大)

【全訳】素人画家にとっては絵の題材として最も興味ぶかい風景が、芸術本位の本職の画家が最も敬遠する風景であるということには重要な意味がある。現在、過去を問わず偉大な風景画家で、もともと劇的な題材や美しい題材を好んで描いた者はほとんどいない。もともと美しいか、あるいは別の面で人の目をひきつける風景は、画家にとっては、目の前のあるものの忠実な模写以外にすることがほとんどないのである。これは素人画家にとってはたいへん結構なことである。というのも、これは、自分が描く絵の構図を考えて、自然の風景の細部を再構成する必要がないことを意味するからだ。描き手にとって、そうした風景はすでに構図が出来上がっているのである。しかし、芸術本位の画家(本職の画家)はこれを望まない。本職の画家は、素人画家が平凡であるとか面白みがないといって取り上げないような風景のほうを好む。本職の画家がこうした種類の風景を好むのは、自分の画家としての技量を試すことになるからであり[そうした風景が自分の画家としての技量に対して申し出る挑戦のゆえであり]、画家としての技量とは、容易には見えないところに美を見いだすこと、自然の要素が混沌としているところに秩序を創造すること、要するに、自然から芸術を作ることなのである。

「素人と本職の画家の違い」

- ・ポイント① 素人が好む題材を本職の画家は好まない＝主題・主張
- { " (② 本職は美しい風景を好まない)
- { " (③ 模写するだけだから)
- { " (④ 素人はこれを好む)
- { " (⑤ 構図が出来上がっているから)
- { " (⑥ (しかし)本職は平凡な風景を好む)
- { " (⑦ 自分の技量を試せるから)
- ・ " (⑧ 画家の技量は(要するに)自然から芸術を作ること＝結論)

【解答例1】素人画家と本職の画家の違いは選ぶ題材に表れる。素人は模写するだけの美しい風景を好むが、本職は平凡な風景で技量を試し、自然から芸術を創造する。(70字)

【解答例2】素人と本職の画家では題材にする風景が違う。素人は構図を考へる必要のない美しい風景を好んで模写するが、本職は技量を発揮し、普通の風景を芸術に変える。(72字)

【解答例3】素人画家が好む風景を本職は好まない。前者は美しい風景を模写するだけだが、後者は自分で構図を考え、平凡な風景から芸術を作り出す。(63字)

※本文の量に比して指定の字数に幅があるので、解答作成は比較的楽なはず。

※第一センテンスで提示された「素人画家と本職の画家の対比」という主題を外せば合格得点は望めない。

※第一センテンスで主題が掴めるからといって、途中をはしょって最後のセンテンスに跳べば、The professional prefers this type of scenery の this type が何であるか掴めないが、一つ前のセンテンスまで目を通せば、本問ではそれなりの解答が可能である。

次の英文を60～80字の日本語に要約せよ。ただし、句読点も字数に数える。

My local newspaper recently ran a feature article headlined, "The Great American Bag Race," which I found both interesting and amusing in ways that neither the author nor the editor probably intended. The subject was the relative merits of paper and plastic grocery bags; the discussion included the reasons why many customers and grocers vehemently prefer one or the other, and the fierce economic competition between manufacturers of both.

Just a few years ago, practically all grocery stores in this country routinely stuffed customer's groceries into paper bags. In the early Eighties, plastic bags began to replace them in some places. By the time I sat down to write this, the two competitors were running neck and neck, with roughly equal numbers of paper and plastic bags in use.

The article I mentioned reached no clear conclusion about which kind of bag was better overall, but it made clear that both kinds of bags contribute to the problems of resource consumption and solid waste disposal. The difference between them in terms of environmental impact is one of degree — and, when you come right down to it, pretty trivial. Ironically, neither the author nor anyone quoted in the article even hinted that there might be another option that offers much more significant advantages over either kind of bag.

('91 東大)

【全訳】最近私の地元の新聞が「アメリカの袋大競争」という見出しの特集記事を掲載した。その記事を読んで、私は興味を覚えると同時に面白いと思ったが、記事の筆者も編集者もおそらくは意図していなかった点で私はそう感じたのだ。記事の主題は、食料品店で買い物をしたときに商品を入れる袋は紙とビニールのどちらが良いかというものだった。その記事は、多くの買い物客や食料品店がどちらか一方を熱烈に支持する理由や、両者を製造している業者間の激しい経済競争についても論じていた。

ほんの数年前までは、この国のほとんどすべての食料品店が客の買った品物を紙袋に詰めるのが習わしだった。80年代の初めになると、紙袋の代りにビニール袋を使う地域も出てきた。私がこの文を書いていた頃には、両者は互角の競争を演じていて、おおよそ同じ数の紙袋とビニール袋が使われていたのだ。

前述の記事は、全体的に見てどちらの袋のほうが優れているのか明確な結論は出していないが、両者とも資源の消費や固形廃棄物処理という問題の一因となっていることは明らかにしていた。環境に与える影響という点では、両者の違いは程度の違いであり、結局はわずかな違いにすぎないことになる。皮肉なことに、この記事の筆者にしる、記事に引用されている誰にしる、どちらの袋よりもはるかに優れた利点を持つ別の選択肢の可能性を仄(ほの)めかすことらしていなかった。

「紙袋とビニール袋の優劣」

- | | | | |
|-----|-------|--------------|-------------------------------|
| [1] | ポイント① | 地元紙が袋についての記事 | を特集 |
| [1] | " | ② | 主題は紙とビニールの買物袋としての優劣(の比較) = 主題 |
| [2] | (" | ③ | 数年前は紙袋が普通) |
| [2] | " | ④ | 現在はほぼ同数を使用 |
| [3] | " | ⑤ | 記事は両者の優劣の(明確な)結論は出さず |
| [3] | " | ⑥ | 環境への悪影響は大差なし |
| [3] | " | ⑦ | 優れた他の選択肢(の可能性)には触れずじまい = 結論 |

【解答例1】地元紙が紙袋とビニール袋の比較を特集。ほぼ同数が使われている両者の優劣の結論は出さず、環境への影響は大差ないとしたが、両者に代わる選択肢には言及しなかった。(78字)

【解答例2】紙袋とビニール袋の優劣を特集した新聞記事は、優劣の明確な結論は出さず、環境への悪影響に大差はないとしたが、両者に代わる物にはまったく触れなかった。(73字)

【解答例3】紙袋とビニール袋の優劣を論じた新聞記事は、明確な結論を出さず、環境への悪影響は指摘したが、両者より優れた選択肢の可能性には言及しなかった。(69字)

※最少字数が60字ということは、文字通りポイントを絞った相当に簡潔な解答が可能であることを示唆している。つい陥りがちな、具体例の取り込み過ぎによる字数オーバーにはくれぐれも注意したい。

「蛍光ペン」について論じた次の英文を読み、全文を句読点も含めて70~80字の日本語に要約せよ。ただし、句読点も字数に数える。(’92 東大)

The use of highlighters — those marking pens that allow readers to emphasize passages in their books with transparent overlays of bright color — is significantly affecting the education of university students by distorting and cheapening the way many read.

While some students still read without using any kind of marker, and some continue to use pens or pencils, most have switched to highlighters. The most common use of highlighters is for simply marking, with a colorful coating over the words, the main points of a text that the student needs to read. While this might seem harmless, such highlighter use in fact encourages passive reading habits — a mindless swallowing of words that pass through the reader without making any lasting impression. This can have a serious effect on young adults who very much need to learn to read actively, critically, and analytically.

It might be objected, with some justification, that the use of a pencil or pen could also bring about the same result. It is nevertheless proper to hold the highlighter responsible for the actual decline in reading skills. When a pencil or pen is used for a highlighting (that is, underlining) purpose, it is ordinarily used also for writing notes in the margins, a process that greatly intensifies the reader’s involvement with the text. The highlighter is practically useless for this purpose.

【全訳】蛍光ペン——読書の際、透明な蛍光色を上から塗って本の一部を目立たせるのに使えるマーカー——の使用が、多くの大学生の読書の仕方を歪め安直にすることで、大学生の教育に重大な影響を及ぼしている。

いまでもマーカーの類をいっさい使わずに読書をする学生もいるし、ペンや鉛筆を使い続けている者もいるが、ほとんどの学生が蛍光ペンに切り替えている。蛍光ペンの最も一般的な使い方は、単語の上に鮮やかな色を塗って、学生が読む必要のある本文中の要点にただしるしを付けるためである。これは無害に思われるかもしれないが、こうした蛍光ペンの使い方は、実は受動的な読書の習慣を助長する——つまり何も考えずに言葉を鵜呑みにするので、言葉は読み手の頭を素通りして持続的な印象を少しも残さないことになる。これは、能動的、批判的、分析的な読書を身につける必要が大いにある若者に深刻な影響を与えかねない。

鉛筆やペンを使っても同じ結果になる可能性がある」と反論されるかもしれないし、この反論にも一理はある。それでもなお、現実の読書力の低下は蛍光ペンのせいだと考えるのが正しい。鉛筆やペンを強調の（つまり下線を引く）目的に使うときは、ふつう余白に書き込みをするためにも使うが、このメモをするという作業によって読み手の本文との関わりは著しく強まる。蛍光ペンはこの目的にはほとんど役立たないのである。

「蛍光ペンと大学生の読書」

- [1] ・ポイント① 蛍光ペンが大学生の読書(と教育)に悪影響＝主題・主張(結論)
 [2] { “ ② 要点をマークするだけ
 [2] { “ ③ 受動的な読書を助長
 [3] ・ “ ④ 読書力の低下は蛍光ペンのせい
 [3] { “ ⑤ 鉛筆やペンは書き込みもできる
 [3] { “ ⑥ 蛍光ペンはこれができない

【解答例1】蛍光ペンは大学生の読書に悪影響を及ぼす。要点をマークするだけなので、受動的になる。読書技術が低下するのは鉛筆やペンと違い書き込みができないから。(72字)

【解答例2】蛍光ペンの使用が大学生の読書に重大な影響を与えている。要点をマークするだけだと受動的な読書になる。鉛筆やペンと違い書き込みができないので読書力が低下する。(77字)

次の英文を読み、全文を80～100字の日本語に要約せよ。ただし、句読点も字数に数える。('93 東大)

Eight, five, seven, three, one, two. If I asked you now to repeat these numbers, no doubt most of you could. If I asked you again after a long talk, you probably couldn't — you will keep the memory for a short time only.

It seems to be the case that two quite different processes are involved in the brain in memory storage, one for the short-term — that is about fifteen minutes to an hour — and one for long-term memory. Many items of information find their way briefly into our short-term stores; most are discarded, and only a few find their way into the long-term store. While memories are in this short-term store, they are easily destroyed: by distraction, for instance — do you remember the number sequence we started with? — or by interference with the brain: by an epileptic fit, or concussion, for example. The film hero who wakes up after having been knocked out in a fight and asks 'Where am I?' isn't joking; if the blow that knocked him out had been real it would have affected the electrical processes in his brain and so destroyed his store of short-term memories. But he will not have lost his store of permanent, long-term memories — indeed, it is extraordinarily difficult to erase them. Quite often in psychiatric treatment the psychologist tries to remove them by drugs, with electrical shock treatment, with insulin therapy, or psycho-analytic techniques, but usually with a very limited amount of success.

Indeed, when one comes to think about it, memory is perhaps one's most durable characteristic as an individual. I can lose limbs, have real organs replaced by plastic ones, alter my facial appearance with plastic surgery, but I am still 'myself' — a complex of past experience, past memories, held tight and firm within my brain; only when I lose these do I cease to be myself.

(注) epileptic ← epilepsy: てんかん concussion: 脳震盪(のうしんとう)
 psychiatric: 精神医学の insulin therapy: インシュリン療法
 plastic surgery: 形成外科

【全訳】 8, 5, 7, 3, 1, 2. いま、この(一連の)数を復唱してくれと言われれば、きっとたいいていの人ができるだろう。長いこと話をした後で同じことを言われたら、おそらくたいいていの人ができないだろう。こうした記憶は短時間しか維持できないだろう。

実は、記憶の貯蔵には二つのまったく異なる脳の作用が関わっているようだ。ひとつは短期間、つまり15分から1時間程度の記憶に関わるもので、ひとつは長期間の記憶に関わるものである。情報の多くは一時的に短期の記憶装置に入り、その大部分は捨てられて、長期の記憶装置に入っていくのはほんのわずかにすぎない。記憶がこの短期の記憶装置の中にある間は容易に破壊される。例えば、他のことに注意がそらされることによって——最初に挙げた一連の数字をまだ覚えているだろうか。あるいは脳に対する妨害によって。例えば、てんかんの発作や脳震盪(のうしんとう)によって。映画の主人公が、喧嘩で殴られてノックアウトされた後で意識を取り戻して「ここはどこだ」と言っても、冗談を言っているわけではない。主人公をノックアウトした一撃がもし本物だったとしたら、それによって彼の脳の電気系統が影響を受け、したがって、短期的な記憶装置の内容は破壊されていただろう。しかし、永久的な長期の記憶装置の内容は失われていないだろう。それどころか、そうした長期の記憶を消し去るのは極めて難しい。精神医学療法でよくあることだが、精神科医がこれを薬物、電気ショック療法、インシュリン療法、精神分析療法等で取り除こうとしても、通常、成功する例は非常に限られている。

確かに、考えてみると、もしかすると記憶は人の個人としての特性のうちで最も永続性の強いものかもしれない。手足を失くし、臓器を人工の臓器と取り替え、顔の外見をを形成外科で変えることはあり得るが、しかしそれでもなお私は「私自身」、つまり脳の内部にしっかりと納められた過去の経験、過去の記憶の複合体なのである。こうした記憶を失くしてはじめて、私は自分自身でなくなるのである。

・ the case ≡ the fact

「二種類の記憶と個人の特性」

- [1] (ポイント① 数の記憶は長時間持続しない＝前置き)
- [2] " ② 記憶には二種類(のプロセスが)ある＝主題
- [2] " ③ 短期間の記憶と長期間の記憶
- [2] ・ " ④ 情報の多くは前者で後者は(ごく)少数
- [2] ・ " ⑤ 短期の記憶は容易に失われる
- [2] ・ " ⑥ 長期の記憶を消すのは困難
- [3] ・ " ⑦ (長期の)記憶は最も永続的な個人の特性
- [3] ・ " ⑧ (長期の)記憶を失うと自分が失われる＝結論

【解答例 1】 記憶には短期と長期の二種類あり、情報の多くは前者で後者は少ない。短期の記憶は容易に失われるが、長期の記憶は消すのが難しい。記憶は最も永続的な個人の特性で、記憶を失うと自分が失われる。(91字)

【解答例 2】 記憶には短期と長期の二種類ある。情報の多くは前者で、容易に消せるが、長期の記憶を消すのは難しい。記憶は最も永続的な人の特性であり、記憶がある限り、自分自身であり続ける。(84字)

※具体例を思い切りよく省けるかどうか＝合格答案を書けるかどうか。

次の英文を読み、全文を80字~100字の日本語に要約せよ。要約にあたっては、“self-handicapping”を定義し、それについての筆者の見方をまとめること。ただし、句読点も字数に数える。(’94 東大) [解答用紙には「Self-handicappingとは」という書き出しが与えられている。]

Bad luck always seems to strike at the worst possible moment. A man about to interview for his dream job gets stuck in traffic. A law student taking her final exam wakes up with a blinding headache. A runner twists his ankle minutes before a big race. Perfect examples of cruel fate.

Or are they? Psychologists who study unfortunate incidents like these now believe that in many instances, they may be carefully arranged schemes of the subconscious mind. People often engage in a form of self-defeating behaviour known as self-handicapping—or, in simple terms, excuse-making. It’s a simple process: by taking on a heavy handicap, a person makes it more likely that he or she will fail at an endeavour. Though it seems like a crazy thing to do, it is actually a clever trick of the mind, one that sets up a difficult situation which allows a person to save face when he or she does fail.

A classic self-handicapper was the French chess champion Deschappelles, who lived during the 18th century. Deschappelles was a distinguished player who quickly became champion of his region. But when competition grew tougher, he adopted a new condition for all matches: he would compete only if his opponent would accept a certain advantage, increasing the chances that Deschappelles would lose. If he did lose, he could blame it on the other player’s advantage and no one would know the true limits of his ability; but if he won against such odds, he would be all the more respected for his amazing talents.

Not surprisingly, the people most likely to become habitual excuse-makers are those too eager for success. Such people are so afraid of being labeled a failure at anything that they constantly develop one handicap or another in order to explain away failure. True, self-handicapping can be an effective way of coping with anxiety for success now and then, but, as researchers say, it makes you lose in the end. Over the long run, excuse-makers fail to live up to their true potential and lose the status they care so much about. And despite their protests to the contrary, they have only themselves to blame.

【全訳】 不運はいつも最悪のときに襲ってくるように思われる。自分が夢見ていた仕事に就くための面接に行く男性が、交通渋滞に巻き込まれる。最終試験を受ける法学部の女子学生が朝目を覚ますと、目がくらむほど頭が痛い。ランナーが、大きなレースの数分前に足首を捻挫する。どれもみな過酷な運命の格好の例である。

本当にそうなのだろうか。このような不運な出来事を研究している心理学者たちは、今では、多くの事例において、こうした出来事は潜在意識が周到に練り上げた計画の可能性があると信じている。人は self-handicapping——分りやすい言葉で言えば、言い訳作り——として知られる、一種の自滅的行動を取ることがよくある。手順は簡単である。重い不利な条件を負うことによって、努力が失敗する可能性を高めるのである。こんなことをするのは正気の沙汰ではないように思われるが、実際には、これは精神の巧妙な企みであり、実際に失敗したときに面子を保っていられる困難な状況を生み出す企みである。

典型的な self-handicapper は、18世紀のフランス人のチェスのチャンピオン、デシャペルだった。デシャペルは並外れたチェスの名手で、すぐに地区のチャンピオンになった。しかし競争がより熾烈になると、彼はすべての対戦に新たな条件を取り入れた。対戦相手が一定の有利な条件を受け入れ、そのために自分が負ける可能性が増す場合に限って対戦することにしたのである。実際にデシャペルが負けても、対戦相手の有利な条件のせいにするので、自分の能力の本当の限界は誰にもわからなかったし、逆にそうした不利な条件をはね返して自分が勝てば、驚異的な才能の持ち主としていっそう尊敬されることになったのだ。

驚くには当たらないことだが、常習的な言い訳人間になる可能性が最も高いのは、成功願望の強すぎる人である。そういう人は、何事にも失敗者のレッテルを貼られるのを恐れるので、失敗を正当化するために、絶えず何らかのハンディキャップを考え出すのである。確かに self-handicapping は、時には成功を求める切なる望みに対処する効果的な方法にもなりうるが、しかし研究者が言うように、そのために終いには失敗するのである。長い目で見れば、言い訳人間は自分の本当の潜在能力をすべて活かすことができず、自分がそこまで気にかけている地位を失うことになる。そして彼らは自分の背ではないと不満を言うが、責める相手は自分しかないのだ。

「self-handicapping」

- [2] ポイント① self-handicapping (言い訳作りの自滅的行動) = 主題
[2] // ② 不利な条件を自分に課して、失敗の可能性を高め
[2] // ③ 失敗しても面子を保てるようにする
[4] // ④ 言い訳人間は成功願望の強い人になる
[4] (// ⑤ 効果的な方法にもなりうる)
[4] // ⑥ 最後は失敗する
[4] // ⑦ (長い目で見れば) 潜在能力を活かせず成功しない
[4] // ⑧ 責める相手は自分

【解答例1】(self-handicapping とは) 言い訳作りの自滅行動で、自分に不利な条件を課して失敗の可能性を高め、失敗しても面子を保てるようにすること。成功願望の強い人に見られ、潜在能力を活かせず最後は失敗するが、自分の背である。(92字)

【解答例2】(self-handicapping とは) 自分に不利な条件を設けて失敗の可能性を高めておき、失敗したとき面子を失わないようにする言い訳作りのこと。成功願望の強い人間がよくやるが、結局は潜在能力を活かせず失敗する。自業自得である。(93字)

【解答例3】(self-handicapping とは) 自ら不利な条件を課して失敗の可能性を高め、失敗しても面目を保てるようにすること。成功を願うあまりの口実作りだが、結局は潜在能力を發揮できず、願望を実現できない。しかし自分の背である。(91字)

【解答例4】(self-handicapping とは) 自分に不利な条件を課して失敗の可能性を高め、失敗しても面子を保てるようにすること。成功願望からくるが、潜在能力を發揮できず、結局うまくいかない。種をまいたのは自分である。(85字)

次の英文の内容を60字～70字の日本語に要約せよ。ただし、句読点も字数に数える。
('95 東大)

Traditional grammar was developed on the basis of Greek and Latin, and it was subsequently applied, with minimal modifications and often uncritically, to the description of a large number of other languages. But there are many languages which, in certain respects at least, are strikingly different in structure from Latin, Greek and the more familiar languages of Europe such as French, English and German. One of the principal aims of modern linguistics has therefore been to construct a theory of grammar which is more general than the traditional theory — one that is appropriate for the description of all human languages and is not biased in favor of those languages which are similar in their grammatical structure to Greek and Latin.

【全訳】伝統文法は、ギリシャ語とラテン語を基礎にして発達し、その後、最小限の修正を加えただけで、しかも、しばしば批判的に捉えられることもないままに、多くの他の言語の記述に適用された。しかし、少なくともいくつかの点において、ラテン語やギリシャ語とも、またフランス語や英語やドイツ語のようなもっと馴染みのあるヨーロッパの言語とも、構造が著しく異なる多数の言語がある。したがって、現代言語学の主要な目的の一つは、これまでずっと、伝統的な文法理論よりもっと一般的[包括的]な文法理論、つまり、人間のすべての言語の記述に適し、文法構造においてギリシャ語やラテン語と類似した言語に都合のよい偏りを持たない文法理論を組み立てることであった。

「伝統文法(の限界)と現代言語学(の目的)」

- ・ポイント① **伝統文法は(=主題)**
- ・ " ② **ギリシャ語とラテン語を基礎に発達**
- { " ③ **多くの他の言語の記述に適用された**
- " ④ **構造が異なる多数の言語がある**
- ・ " ⑤ **現代言語学の主な目的の一つは=主題**
- ・ " ⑥ **より包括的な文法理論の確立=結論**

【解答例1】ギリシャ語とラテン語に基づく伝統文法は他の言語に適用されたが、構造の違う言語が多く、現代言語学の一つの目的は包括的な文法理論の確立にある。
(69字)

【解答例2】ギリシャ語とラテン語に基づく伝統文法は、構造の違う他の言語にも適用されたが、現代言語学の一つの目的は、より包括的な文法理論の構築にある。
(68字)

【解答例3】伝統文法はギリシャ語とラテン語を基に、構造の違う他の多くの言語に適用されたが、現代言語学はより普遍的な文法理論の確立を目指している。(66字)

【解答例4】ギリシャ語とラテン語を基礎とする伝統文法は、構造の違う他の多くの言語の記述に適さず、現代言語学はより一般的な文法理論を追究してきた。(66字)

【解答例5】現代言語学は、ギリシャ語とラテン語の伝統文法にとらわれず、構造の異なる全ての言語を記述する、普遍的な文法理論の確立を目指している。(65字)

※わずか120語の英文を60字～70字の日本語に要約するのは、いたって簡単なように思われるが、意外に書きにくい。理由はポイントの③と④をうまく一つにまとめないと字数的にきつくなるからだ。

※短い段落が一つ、「伝統文法の限界と現代言語学の目的」という主題は明らかだが、後半に重点があることを見抜ければ、今回に限っては、日本語の構成力と表現力に自信のある人は思い切って全体を再構成するのも一つの方法である。【解答例5】

次の英文の内容を 80字~100字 の日本語に要約せよ。ただし、句読点も字数に含める。('96 東大)

From the outset, our civilisation has been structured in large part around the concept of work. But now, for the first time in history, human labour is being systematically eliminated from the economic process, and, in the coming century, employment as we have come to know it is likely to disappear. The introduction of a new generation of advanced information and communication technologies, together with new forms of business organisation and management, is forcing millions of workers into temporary jobs and unemployment lines. While unemployment is still relatively low, it can be expected to climb continuously over the coming decades as the global economy fully enters the Information Age. We are in the early stages of a long-term shift from mass labour to highly skilled "elite labour", accompanied by increasing automation in the production of goods and the delivery of services. Factories and companies without a workforce are beginning to appear. These developments, however, do not necessarily mean a dark future. The gains from this new technological revolution could be shared broadly among all the people, by greatly reducing the working week and creating new opportunities to work on socially useful projects outside the market economy.

- ・ employment (as we have come to know it) is: as ... it は employment を修飾する形容詞の働き, 名詞の後ろに置かれた副詞節が名詞を修飾する形容詞節の働きをするのは, 接続詞が before, after, when, as の場合には珍しくない。

【全訳】初めから, われわれの文明は主として労働という概念を中心に構成されてきた。しかしいま, 歴史上初めて, 人間の労働は経済活動の過程から組織的に取り除かれつつあり, 次の世紀には, われわれが今日知るに至っている雇用形態は姿を消すことになりそうだ。新世代の先進的な情報通信技術の導入により, また企業の組織形態と経営形態の刷新もあって, 何百万人も労働者が臨時雇いの職に就いたり, 失業の憂き目に会う[失業という境遇に追いやられる]ことを余儀なくされつつある。失業率は, まだ比較的低いものの, 世界経済が完全に情報化時代に入るにつれて, 今後数十年に渡り継続的に上昇することが予測される。われわれは大衆労働から高度技術をもった「エリート労働」への長期に渡る移行の初期の段階にあるが, こうした移行には, 商品の生産とサービスの提供における自動化の増加が伴う。労働者のいない工場や会社が出現し始めている。しかしながら, こうした展開は必ずしも暗い未来を意味するわけではない。こうした新しい技術革命から得られる利益は, 1週間の労働時間を大幅に削減し, 市場経済の枠組みの外に位置する社会的に有益な活動に取り組む新しい機会を創り出すことで, すべての人々の間で広く共有され得るからだ。

「大衆労働からエリート労働へ」

- ・ポイント① 文明の中心は労働概念だった
- ・ " ② 人間労働が経済活動から排除される
- ・ " ③ 現在の雇用形態は消滅する
- ・ " ④ 情報技術の進歩で多くの労働者が不要になる
- ・ " ⑤ 大衆労働からエリート労働に移行
- ・ " ⑥ 労働時間の減少で社会的に有益な活動に参加
- ・ " ⑦ 技術革命の利益は広く共有できる

【解答例1】文明の中心だった人間労働が経済から取り除かれ, 雇用は消滅しかけていく。新情報技術によって大衆労働がエリート労働に移行するからだ。一方, 労働時間の減少で社会活動に参加できる利点もある。(91字)

【解答例2】文明の中心概念だった人間労働が、情報技術の進歩によって経済の過程から排除される。大衆労働からエリート労働への移行で大勢の労働者が職を失うが、労働時間の短縮で社会活動に参加できる利点もある。(94字)

※明らかに不要な箇所、つまり省ける箇所を特定しにくいので、まとめにくいですが、上で拾った以外のポイントもいくつかありえるはずだ。

※冒頭の「文明は主として労働という概念を中心に構成されてきた」は主題の提示とまでは言えないが、単なる前置きでもない。省けるかどうかは微妙なところ。

※最後の「市場経済の枠組みの外に位置する社会的に有益な活動に取り組む新しい機会」は具体例と言えれば具体例だが、これを省くと、要約文の文意がかなり曖昧になる。

※「大衆労働からエリート労働に移行」を重視したが、これが絶対に必要かどうかは、大学が解答例を提示しない以上、何とも言えない。いずれにしても、今回は解答の幅はかなり認められるのではないかと推測される。